

戰時教育令外一件審査委員會

昭和二十年五月三日(木曜日)宮中東三ノ
間本院控室ニ於テ開會

出席者

平沼議長

審査委員長

清水副議長

審査委員

南顧問官

奈良 顧問官

林 顧問官

真野 顧問官

大島 顧問官

竹越 顧問官

野村 顧問官

闕席者

審査委員

深井 顧問官

國務大臣

太田文部大臣

説明員

村瀨法制局長官

入江法制局參事官

荒木法制局參事官

大島内務省管理局長

橋川内務書記官

藤野文部次官

永井文部省總務局長

中根文部書記官

柳 密 院

西崎文部書記官

内藤文部書記官

山越大東亞省滿洲事務局長

石澤大東亞省南方事務局長

多田大東亞書記官

腰原大東亞事務官

松下關東局事務官

堀江書記官長

諸橋書記官

高辻書記官

(午前十時十五分開會)

清水審査委員長開會ヲ宣ス

太田文部大臣ヨリ本案ノ内容ニ付説明アリ

南委員ヨリ

(一)戰時教育ノ現況ヲ問ヒ藤野文部次官ヨリ

大學ニ付テハ法文科系ハ在學者著ク激減シ

タルガ一年ハ臨時ノ動員ヲ受クル外概不學

區 審 院

業ヲ繼續シ二年以上ハ通年動員ニ服シツツ
アリ理工科系ハ一年ハ隨時必要ニ應ジ緊急
ナル動員ニ服スルコトナシトセザルモ學業
ヲ受クルヲ建前トシ二年以上ハ夫々ノ學科
ニ應ジタル方面ニ出勤シ唯ガ三年ハ最後ノ
三月間仕上げ教育ヲ受ケツツアリ農林科系
ハ農藝化學方面ハ除キ概ネ食糧増産方面ニ
於テ指導的役割ヲ演ジ醫科系ハ工場動員ヲ
爲サズ專ラ勉學ヲ繼續シツツアリ其ノ他各
科ヲ通ジ重要研究ヘノ動員ヲ爲シ教授ノ研

究ニ對スル補助者ノ形ニ於テ直接之ガ指導
ヲ受ケツツアリ専門學校ハ各科略々大學ノ
例ニ準ジ中等學校ハ三年以上ハ通年動員一
二年モ地方ニ依リテハ通年動員ニ近キ情況
ニ在ルモ今後專ラ之ヲ農業方面ニ限ルベク
措置シツツアリ國民學校ハ高等科ノミヲ動
員對照トシ一部工場方面ニ動員シタル例ア
ルモ食糧増産ニ動員スベク努メツツアリ教
員養成ノ諸學校ハ大體文科系ニ準ズル取扱
ヲ爲シ只實際上ノ出勤ニ當リ相當平心ヲ加

へツツアル旨

(二) 國民義勇隊ト本案學徒隊トノ關係ヲ問ヒ
太田文部大臣ヨリ兩者別個ノ組織ナルカ同
時ニ發動スルトキハ義勇隊トシテ出勤スル
コトト爲ル旨

(三) 學徒隊ノ配置ヲ適正ナラシムル爲當局ニ
於テ考究スル所ヲ問ヒ藤野文部次官ヨリ從
來ノ學徒勤勞ニ付テハ往々配置ニ適正ヲ缺
キタル嫌アリタルガ學徒隊ノ結成ト同時ニ
學校ト近距離ニ在リテ學徒ノ年齡性別ニ適

スル工場トノ間ニ特定連繫ノ關係ヲ持タシ
メンコトヲ期シツツアル旨

(四) 學徒ノ出勤ニ對スル報償ヲ問ヒ藤野文部
次官ヨリ報償ハ個々ノ學徒ノ勤勞ニ對スル
對價ニ非ズシテ學校報國隊ノ共同業績ニ對
スルモノト觀念シ其ノ基準額ハ資銀統制令
所定ノ第二級非熟練者ノ最高初給賃銀ヲ標
準ニ採リ大學七十圓專門學校六十圓中學ノ
三年以上五十圓トシ女子ハ各十圓宛低額ナ
リ凡テ總額ヲ學校長ニ送付スルヲ以テ建前

トシ學校ハ右金額中ヨリ教育費等ヲ控除シ
別ニ定メタル一定ノ支給額(大學、專門學校三
〇圓、中學二十五圓)ヲ學徒ニ渡シ更ニ殘額ア
ラハ學徒ノ本人名義ヲ以テ貯金シ卒業ノ際
之ヲ手交スルモノナル旨 夫々答辯アリ

(休憩 午後零時十五分乃至同一時三十分)

奈良委員ヨリ

(一)本案ニ参照ノ決戦教育措置要綱(昭和二三・二八
閣議決定)ニ
依レバ學校ノ授業ハ一年間原別トシテ之ヲ
停止スル旨ヲ定メタルガ之ガ措置如何ヲ訊

シ藤野文部次官ヨリ動員下令ニ基ク學徒隊
ノ出勤ニ依リ當然授業停止ノ事實ヲ發生ス
ルヲ以テ特ニ本案第四條ヲ發動シ授業ノ停
止命令ヲ出スニ及バザル旨

(二)學徒隊動員ノ發令者ヲ問ヒ藤野文部次官
ヨリ厚生省又ハ農商省ニ於テ割當ヲ定メタ
ル所ニ從ヒ學徒勤勞令ニ基キ文部大臣又ハ
地方長官ニ於テ特定ノ學校ニ對シ下令スル
モノナル旨 夫々答辯アリ

林委員ヨリ

(一)授業ノ停止ニ關シ戰時教育令第四條ト國
民學校令等戰時特例第七條トノ關係ヲ質シ
藤野文部次官ヨリ兩令ノ執レヲ以テスルモ
授業ノ停止命令ハ之ヲ發シ得ルモ後者ハ專
ラ學校ノ整理統合ニ伴フ授業ノ停止ニ係ル
ニ反シ前者ハ專ラ戰局ノ推移ニ基ク學校教
育ノ運営ニ關スルモノニシテ動員下令ノ際
ハ當然授業停止ヲ伴フガ故問題トナルノ餘
地ナカルベキ旨

(二)戰時教育令ト學徒勤勞令トノ關係ヲ問ヒ

藤野文部次官ヨリ學徒勤勞令ハ總動員業務
ニノミ關係アルモ本令ハ廣ク戰時ニ緊切ナ
ル業務ニ關スルガ故ニ動員ハ業務ノ内容ニ
應ジテ執レカノ勅令ニ基クコトト爲ル旨

(三)學徒ノ勤勞管理ニ付改善ノ要アリトシ當
局ノ對策ヲ問ヒ永井文部省總務局長ヨリ將
來ハ學校ト工場トノ連繫ヲ強化シ工場内ニ
學徒勤勞指導本部ト謂フガ如キモノヲ設ケ
學校教職員ト工場幹部トノ接觸ヲ多クシ工
場ノ幹部ヲシテ學徒ノ指導ニハ一層ノ關心

ヲ持タシメ牽テ學徒ノ勤勞管理ニ遺憾ナカ
ラシメントスル旨

(四)戰時教育令第五條ニ所謂卒業ニ準ズルモ
ノノ内容ヲ問ヒ村瀨法制局長官ヨリ大學豫
科ニ關シ修了ノ場合、大學ニ關シ學士ト稱ス
ルエトヲ得ル場合、如キヲ含ム旨 夫々答
辯アリ

眞野委員ヨリ本案ニ参照ノ決戰教育措置要綱
ニ付若干ノ質問アリタルニ對シ説明員ヨリ答
辯アリ

大島委員ハ學徒隊ニ對スル軍事訓練ヲ問ヒ太
田文部大臣及永井文部省總務局長ヨリ從前當
該學校ニ配置セラレタル將校ガ其ノ儘學徒隊
ニ配屬セラレ學徒隊長ノ指導監督下ニ軍事訓
練ヲ行フモノナル旨等ノ説明アリ
委員長ハ右終テ質問終了ト認メ大臣及説明員
ノ退席ヲ求ム

(大臣及説明員退席)

其レヨリ委員間ニ於テ協議、結果本案ハ此ノ
儘之ヲ可決スベキ旨全會一致ヲ以テ議決ス

仍于清水審査委員長閉會ヲ宣ス

(午後四時二十分閉會)

本館
密
院

各省官制通則外七勅令中改正ノ件外一件審査
委員會

昭和二十年五月九日水曜日宮中東三ノ
間本院控室ニ於テ開會

出席者

平沼議長

清水副議長

審査委員長

石井顧問官

區
密
院